

日本人のみた外国 タイの女性と制服（カルチャー・ショック）

著者	石井 美千子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	130
ページ	44-44
発行年	2006-07
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005445

タイの女性と制服

石井美千子

もう一〇年ほど前になるが、バンコクに住んでいた頃、タイの女性が着用している制服に大変興味をそそられた。

あるとき、自宅近くの銀行で順番を待ちつつ、カウンター内で働く女性たちを見るときも、なんとなく見ていた。すると、女性行員の制服が皆、違っていることに気がついたのである。銀行のマークをあしらった布地を使っているのだが、デザインが違う。いくつかのパターンから選んでいるのではない。各々、その人の個性に合ったデザインや、自分の好みを取り入れているらしいデザイナーの、実にバラエティに富んだ「制服」を着ているのだ。銀行の制服らしくないフェミニンなデザインもあれば、キリッとしたキャリアウーマン風もある。もう記憶が薄れているが、銀行のマークを模様にした布地は、色も二種類ぐらいあったと思う。その布地でブラウスを作り、その模様と同色の布地で襟や縁取りをついたり、同色の上着を合わせていたりする。一律に同じ制服だと、似合う人もいれば似合わない人もいる。このように銀行マークの布地さえ使えばデザインは個々人の自由という、ゆるい統一感が大変好ましく感じられた。

さて、銀行での用事を終えて、歩道に軒を並べる露店を何気なく見ながら歩いてみると、果物や軽食の露店の間で、その銀行マークの布地が売られているのを見つけた。そうか、あの銀行の女性たちは、昼休みや帰り道にこういう店で布地を買って、制服を新調するわけか、と想像をめぐらす。

他の銀行まで視察はしなかったが、ある日系企業で働いていた友人によると、彼女がいた会社でも女子社員には制服用の布地が支給され、好きなデザインで作ってよいことになっていったそうだ。あの銀行近くの露店で売っていた布地は、自腹を切つてでもスベアを作りたい人が買うのであろうか。

このような「制服」が可能なのは、タイでは安い仕立て代で、自分の好きなデザインの服を仕立てられるからだろう。仕立て代はピンからキリまであるが、平均的な仕立屋では、日本で安めの既製服を買うぐらいの感覚で仕立てられるといえる。

ところで、タイでは大学にも制服がある。大学によっても違うかも知れないが、これでもかなり自由が認められているようで、チュラーロンコン大学では、女子大生が多様なスカートを着用していた。大学のポタンがついた白いブラウスは皆一緒で、スカートの色は黒というのは同じだが、デザインや素材は自由なのだ。これは、仕入先を大学近くのショッピングセンターに見

つけた。その店では、短めの丈、ロング丈、フレアー、プリーツ、タイトと様々なデザインの制服用スカートが豊富に揃っている。値段を見るのは忘れたが、店の感じからしていかにも安そうだった。

一般の公務員は制服を着ていないが、身分証明書の写真は、制服姿で撮ららしい。国立大学の教職員や官庁勤めの女性は、ふだん、ファッショナブルな服装をしていても身分証明書ではいかめしいミリタリー調の制服を着て写っている。ただし、この制服は貸衣装だとのこと。身分証明書の写真だけは制服で、というのも興味深い。

制服といえば、タイ航空のスチュワーデスの美しい制服に目を惹かれる人も多いと思う。色鮮やかなタイシルクで仕立てた伝統的デザインのロング丈スーツ、肩からかけたサッシュには紫色の蘭の生花をブローチにして留めている。なんと優雅な制服であらうか。この制服の場合は、デザインは同じだが、色が人によって違う。

他にも同様の制服文化の国があるかどうかは知らない。しかし、タイ女性の自由な制服には、帰属やステイタスを重視しつつも、個性を大切にする風が感じられる。

(いしい みちこ／アジア経済研究所図書館)